

(11) 沖縄



沖縄地域では、景気は基調として着実に回復しており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、緩やかに増加している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回(平成26年5月)	今回(平成26年8月)	
景況判断	基調としては着実に回復しているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる	基調として着実に回復しており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある	
個人消費	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱めの動きがみられる	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、緩やかに増加している	

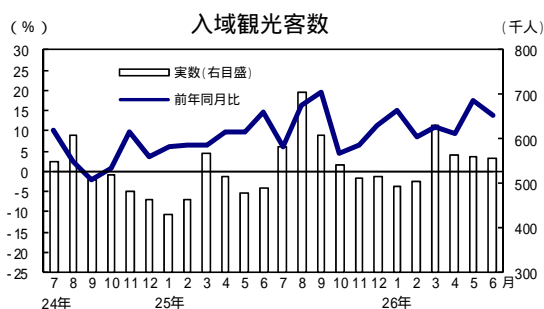
1. 観光及び企業動向

(1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数のうち、国内客については、4月は米子-那覇路線の新規就航等により、前年を上回った。5月はGW期間中好調であったことに加え、連休後も好調に推移したこと等から前年を上回った。6月は各方面とも好調に推移し、LCC3社の減便があったもの、沖縄方面全体での提供座席数は前年度並みであったこと等から前年を上回った。

外国客については、4月は前年度に比べ航空路線が拡充した影響等から、前年を上回った。5月は引き続き航空路線拡充の影響により空路客が増加したことや、クルーズ船の寄港回数が前年度より増加したこと等から、前年を上回った。6月は空路客が路線拡充により大幅に増加したことや、クルーズ船の寄港により海路客も好調であったことから、前年を上回った。

主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテルともに前年同期を上回っている。



入域観光客数等の動向

(単位: 千人、%)

	25年10-12月	26年1月-3月	4月-6月	26年6月
入域観光客数	1,572	1,628	1,684	557
(前年比)	7.2	11.4	13.6	13.9
ホテル稼働率	70.4	79.0	75.7	78.3
(前年差)	3.9	3.2	6.0	7.5

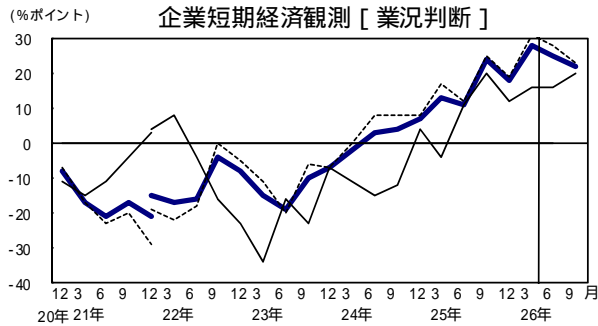
(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光政策課調べ。

2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

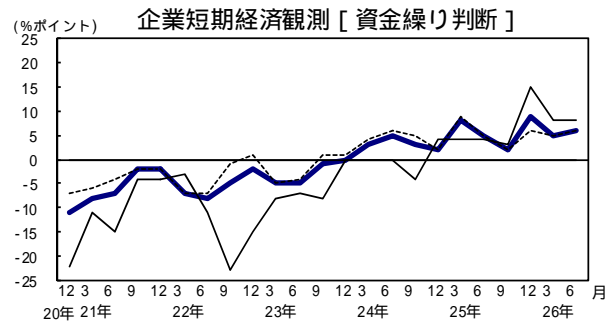
3. ホテル稼働率の前年差については、内閣府にて算出。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

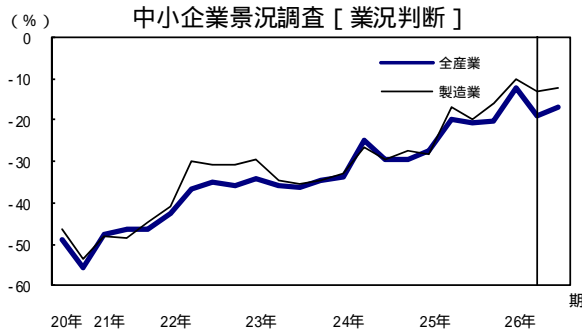
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年9月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。

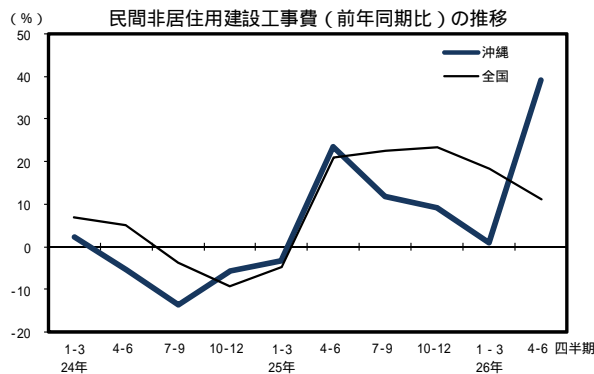


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のD I。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「離島全体の需要が堅調なうえ、那覇空港滑走路増設工事の本格化で、船舶の需給が非常にタイト化している(輸送業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	25年度実績	26年度概
全産業	45.2(4.0)	10.0(9.0)
製造業	146.7(1.4)	20.5(22.7)
非製造業	28.9(5.8)	6.8(22.1)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、緩やかに増加している。

域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比12.7%減、5月は同1.8%増、6月は同1.9%増となった。

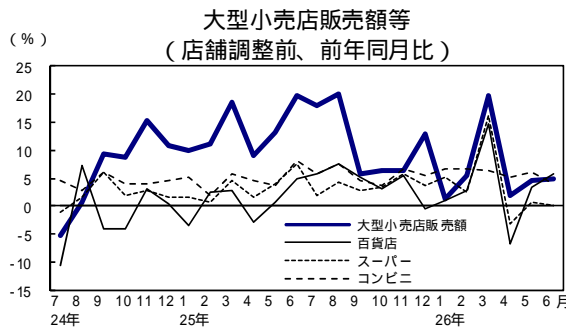
百貨店販売額、スーパー売上高

百貨店は、4月、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動等により、前年を下回った。5月、6月は、来客数の増加等により、食料品や衣料品が好調であったこと等から前年を上回った。スーパーは、衣料品、住居関連を中心に消費税増税に伴う駆け込み需要の反動がみられたこと等から、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

沖縄地域の家計動向関連DIは、61.6となり前月より11.6ポイント上昇した。

「台風8号前後で影響を受けたが、月後半の伸びが良い(観光名所)」など、「良くなっている」とする回答が増加した。

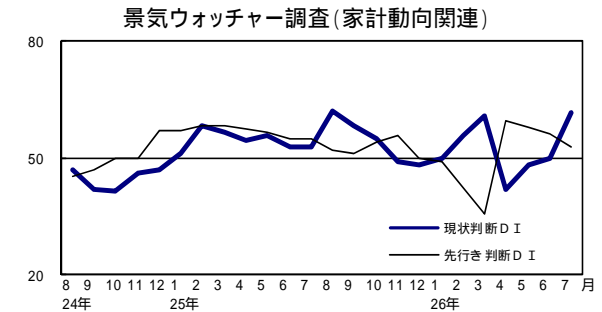
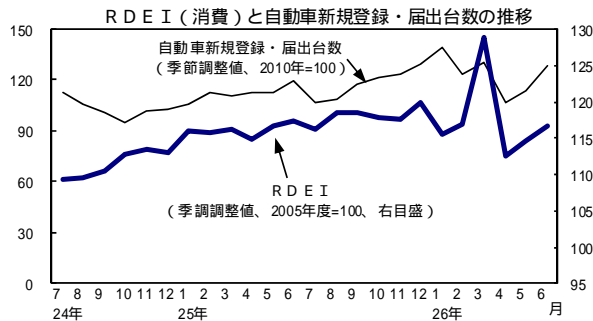


	26年4-6月	26年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	4.8	12.7	1.8	1.9
大型小売店(*2)	3.8	1.8	4.7	4.8
百貨店(*2)	0.9	6.8	3.5	5.7
スーパー(*2)	0.8	3.2	0.6	0.1
コンビニ(*2)	5.1	5.1	6.2	4.1
乗用車(*3)	3.2	5.7	2.5	9.3
(季節調整値)(*3)	11.3	18.4	6.8	12.9

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

2. 大型小売店は経済産業省調べ(店舗調整前)百貨店、スーパー、コンビニは日本銀行那覇支店調べ(百貨店以外は全店)前年同期(月)比 (%)

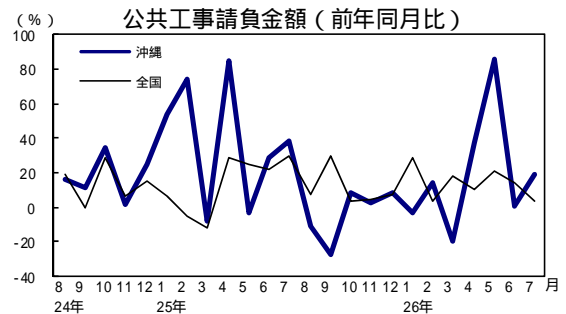
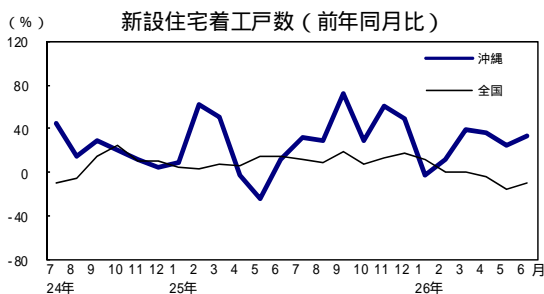
3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は26年度累計で見ると前年度を上回っている。

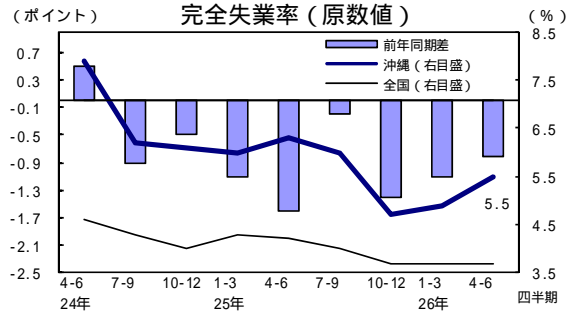
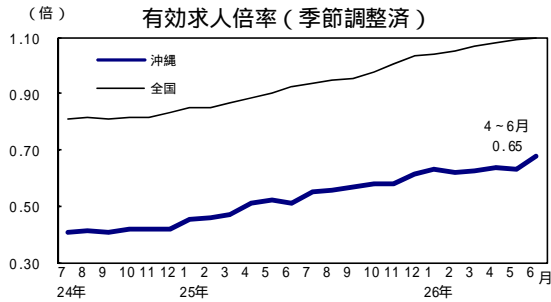


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考) 沖縄県の完全失業率は、沖縄県「労働力調査」より算出。

景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

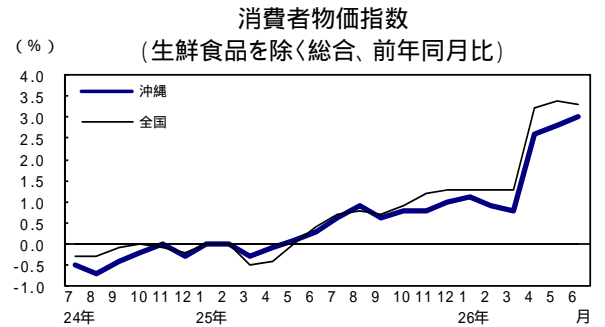
「新卒採用予定企業が増えている状況である。また、中途採用から新卒採用へのシフトも見られる (学校 [大学])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年7-9月	10-12月	26年1-3月	4-6月	26年7月
倒産件数	26	14	18	14	4
(前年比)	36.8	17.6	12.5	39.1	55.6
負債総額	26	87	21	41	4
(前年比)	1.5	275.2	90.5	21.7	66.7



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・3か月前に比べ稼働率において大きく前年同月実績を上回る見込みである。台風8号の影響はあったものの、高稼働率で推移している (観光型ホテル)

<先行き>

・8月はギフトの前倒しで前年並みと見込んでいるが、2~3か月先は入域観光客増の効果や店舗一部改装効果など、期待できる (百貨店)

景気ウォッチャー調査 (合計: 家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

